

111 ひゃくばんかんのんせきぶつぐん  
百番観音石仏群



指 定 市有形文化財 昭和61年 9 月10日  
所在地 春 日  
所有者 飯塚 宗治



春日入新町南方200mの東面した山腹の岩の割れ目に木造馬頭観音立像を造立した中国の石窟寺形式の小堂を中心とした霊場である。観音堂の本尊は石窟寺型式の洞窟内の木造馬頭観音立像である。開山は、寛永6年（1629）岩下新田を開発した飯塚勘右衛門であり、百番観音は明治中期に武田嘉右衛門が願主となり、佐久郡一円より寄進者を募り、伊那郡笠原村の石工矢嶋檜蔵、小平宙弥の2名に依頼して造立したものである。

112体の石仏中観音が100体、その他に如来、菩薩等が12体である。西国、坂東、秩父霊場の百観音を一山に建立して、日本三大札所巡拝の功德を祈願して建立したもので、庇状露岩下の各所に観音像を造立した配置の見事さと環境の良さは、比類のない景観である。